

伊佐沼の東側にお花畑ができます！

自然沼としては埼玉県内最大、関東地方でも印旛沼に次ぐ広さである伊佐沼は、近年、**古代蓮の名所**として多くの人々が楽しめる場所になりました。また、県の水辺再生事業により親水護岸や葦の植栽、木道の整備により、野鳥観察等を楽しむ人も年々増えているようです。

そんな伊佐沼には、以前から沼の東側に伊佐沼公園拡張計画がありますが、市の財政難の影響で計画が進んでいませんでした。

今回、その内の約1万㎡を暫定的にお花畑にすることになりました。今年度は秋に向けて試験的に**スイレンとホトトギス**を植える予定とのことです。しかし、**スイレンは本来江戸原産の外来植物**です。できることなら日本原産の植物が望ましいと提案しましたが、私の所に話が来たときにはすでに

に準備を整えた後だったため、変更はできませんでした。**古代蓮が咲く魅力ある伊佐沼にふさわしい花は何か**、植物に詳しい方のご意見を今後の参考に、是非お聞かせ下さい。



(2009年7月に川口撮影)

シリーズ環境問題⑱・・・シェールガスの環境リスク

シェールガスは泥岩の一種で深さ2千メートル以上の頁岩(けつがん)層から採掘される天然ガスです。米国などで生産が急拡大しています。

シェールガス開発に伴って環境面の問題がニュースになることはあまりありませんが、**採掘方法には多くの問題があると指摘されています**。水圧破砕法(フラッキング)と呼ばれるその手法は、**地中深く掘った穴に「大量の化学物質を含む水」を注入し、水圧により人工的に地層に割れ目を作りガスを抽出する**という手法です。以下に代表的な問題点をあげました。(因果関係を否定している研究者もいます)

①、使用した化学物質が地中に堆積し、周辺にある飲料用の地下水に漏れ出す。これにより、**水道の水に火がつく事例**が多数報告されている。そうした水は、見た目は黄色く濁っており、**「ペンキ」のような臭いで、「金属」のような味がする**という。

②、使用した「大量の化学物質を含む水」は破砕後に地表に戻されるが、高濃度で汚染されているので、適切に処理されなければならないが、汚染した水を処理場に運ぶまで一時的に貯水するタンクや貯水所に亀裂が生じたり、降雨で溢れ、地中や地上に漏れ出すことがある。(現在の福島第一原発の状況と似てる?)

③、採取したガスには揮発性有機化合物(VOC)やメタンなど有害物質も含まれ、その一部は大気中に放出され、人体に害を及ぼしたり、温室効果ガスとして温暖化を進めることになる。シェールガスの水圧破砕による温暖化への影響は、石油や石炭以上になるとする研究者もいる。

これらによる健康被害は、臭覚や味覚の異常頭痛・耳鳴りから、末梢神経に障害が現れはじめるなどの例が全米で報告されています。また水圧破砕法による採掘は地震誘発のリスクもあり、各国で問題や反対運動が起こっています。

既存の石油も石炭も、太陽光や地熱などの新エネルギーも、環境に負荷をかけないエネルギーなどないかもしれません。しかし、**どの程度負荷をかけているのかを知らなければ、何が望ましいのかを判断することはできません**。

環境へのリスクを考え仏・独・蘭などはシェールガスの開発に消極的で、欧州でも対応は二分しています。一方、シェールガス生産が盛んな米国では2009年頃から天然ガス価格が下がり「シェールガス革命」とも呼ばれています。日本への輸入についても米政府による許可を条件に、2017年の輸入開始を目指して企業間で話し合いが続いており、これまでの天然ガスより2~3割安を見込んでいるようです。

皮肉なことに**原発大国米国では「シェールガス革命」により原発のコスト競争力が低下し、福島事故を受けての規制強化と相まって原発の廃炉が相次いでおり、原発産業が岐路に立たされている**という現実もあります。

今回取り上げた問題のように普段メディアであまり取り上げられない事実は数多くあります。NHKBS1放送の、「BS世界のドキュメンタリー」(月曜~木曜0時~0時50分)ではこうした問題を数多く放送しており、是非おすすめです。